

特別講演会

Bioactive Natural Products Research: Past, Present, and Future

小林 淳一 先生

(北海道大学・名誉教授)

これまで30数年にわたり、沖縄産の海洋生物（海綿、ホヤ、渦鞭毛藻、など）、陸上の植物（イチイ、ユズリハ、ヒカゲノカズラ、など）、陸上微生物（放線菌など）から、数千を超える新規生物活性天然物質（アルカロイド、マクロライド、ポリケタイド、テルペノイド、など）を単離、構造決定しており、これらの化合物の中には、新しい医薬品のリード化合物、あるいは生体機能解明のためのバイオプローブ（研究用試薬）として期待されるものが数多く含まれている。それらの中から代表的な研究例を紹介するとともに、天然物研究の現状と将来を展望したい。

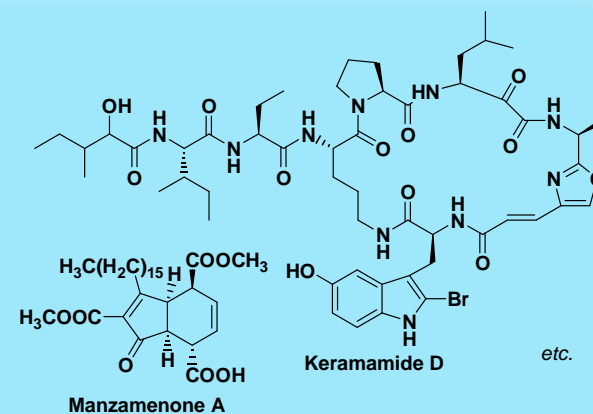
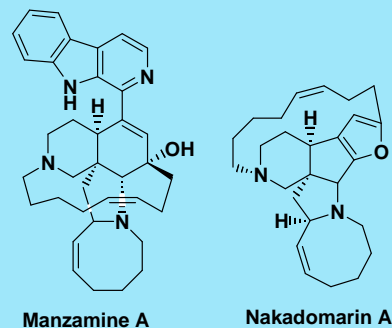
2018年11月9日(金) 16時20分より
コラーニングハウスII CII講義室

問合先 精密合成化学研究室 土肥寿文（内線 6181）

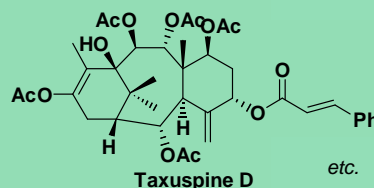
【共催】R-GIRO

「有機生命資源の有効利用による電子・光機能性材料の創製」

(1) Marine natural products



(2) Plant natural products



(3) Microbial natural products

